

あしっ 育成だより

14

立教 183 年 4 月 26 日発行
編集 / 天理教芦津大教会育成部

- 特集 ①育成プロジェクトの現状とこれから
②わかぎの集い、学修で育てられた私



《親のことば》

道の子を育てる場合にも、親がちゃんと信仰していれば子供は自然に付いてくるとは言い切れないと思います。もちろん、「親のあと子が伝う」のではありませんが、親がしっかり道を通るだけでなく、節目節目には子供の成長段階に応じて、それにふさわしいしつけ、仕込みをすることをおろそかにしてはならないと思うのであります。

(天理教婦人会第 93 回総会における真柱様お言葉より)

重点育成行事と 10 年計画で 子弟に信仰の喜びを伝えよう

育成プロジェクトがスタートして3年が経過し、育成する側の意識は変化してきたものの、まだ課題も多くあります。3月に予定していた「教会長子弟育成者研修会」が延期になったこともあり、紙面にて芦津大教会の子弟育成の現状と展望について説明します。

真柱様のお言葉を受けて

4年前の1月26日に執行された教祖百三十年祭。その神殿講話で真柱様は、「これからの歩み方を思案するとき、何にもまして、道の将来を担う人材を育成する必要性を強く感じる」「陽気ぐらしの世界建設のために立ち働くようぼくを育てること、増やすことに力を入れなければと思う」と仰せくださいました。この思いを受け、ご本部では「教会長子弟育成プロジェクト」が立ち上がり、全大教会での取り組みが始まりました。



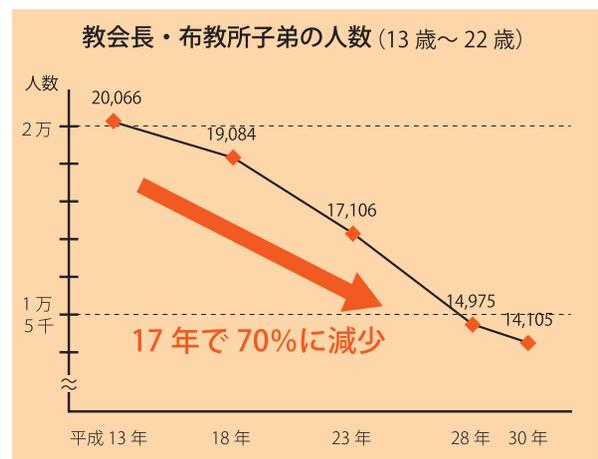
第1回教会長子弟育成者研修会（立教180年3月）

教会になくてもならない人材に

教会長子弟育成プロジェクトの目的は、「すべての教会長子弟を、教会になくてもならない人材に育てる」ことにあります。多くの若者を育てていく中で、まず自分たちの足元である、教会長子弟を、教会になくてもならない人材へとしっかり育てることが重要です。

現在、教会長子弟でも道から離れていく人や、教会活動から距離を置く人がいます。「第1回教会長子弟育成者研修会」では、『『教会で育てば放っておいても親から子供へ信仰が自動的に伝わる』と、心のどこかで考えてはいないでしょうか』との問題提起があり、自分の子供たちに信仰心が養われるよう、未信者の方を導き育てるのと同じように、心を配りながら導いていく必要があると示していただきました。

また、少子化が進む現状に触れ、今後予想される「教会長子弟の人数」のグラフが提示され、わずか17年でおおよそ30パーセント減少するとの試算でした。教会長子弟の絶対数が減っていく現状を踏まえ、一人ひとりをお道につなげていくことが大切です。



ご本部・大教会の活動を利用しよう

育成プログラムがスタートして3年が経過しました。育成する側の意識も徐々に変化し、新

たな取り組みを始めた教会もあります。しかし、結果としては「できている教会」と、「できていない教会」の差がはっきりとしてきました。

すでにさまざまな活動を実施している教会や、子弟をおぢばの学校へと進学させている教会については、このまま続けていただければいいのですが、なかなか進んでいない教会については、このままでは近い将来でさえ、暗いものになりかねません。

3年間で浮き彫りになった問題点は、

- ・ **そもそも教会長子弟が存在しない**
- ・ **育成者である教会長が年配で、何もできない**
- ・ **子弟がまだ小さくて、何から始めればよい**

のかわからない

- ・ **親が御用で忙しく、新たな活動を始められない**
- ・ **子弟がすでに成人して、教会から遠く離れてしまっている**
- ・ **育成に関する理解者が教会にいない**

などが挙げられます。

こうした現状を踏まえて、育成部では、なかなか活動できない教会に対しては、「既存の行事の活用」と「できることから始める」ことを推し進めてきました。その中から、「教会おとまり会」「教会こども会」「デイキャンプ」の実施など、新たに動き出した教会も出てまいりました。

わかぎ・学修を重点育成行事に

特に、本年からは、「わかぎの集い」「学生生徒修養会」を、「重点育成行事」に指定しました。

わかぎの集いは中学生、学生生徒修養会は高校生・大学生・専門学校生が対象ですが、学校やクラブ活動の忙しさ、また信仰に対する疑問や悩みなどから、道から離れやすい年代でもあります。こうした若年層に、信仰の喜びを伝え、同じお道を通る仲間を作ることは、将来お道を

通る上で大きな財産となります。

現在、芦津の青年会、女子青年、学生会の中心メンバーには、わかぎの集いの参加者や、学修で学んだ子弟がたくさんいます。昨年の創立130周年記念祭でも、大教会・おぢばで学んだ大勢の子弟たちが、「帰参者に喜んでもらおう」とひのきしんに励んでくれました。

教会長の皆様には、子弟をこれらの行事に必ず参加させ、育成の手立てとしてください。

子弟育成のための

重点育成行事

わかぎの集い (3月29日～31日)



学生生徒修養会 高校の部 (8月) 大学の部 (3月)



道の後継者を育てる 10 年計画

また、「育成」は教会長子弟に限ったことではありません。ようぼく・信者子弟をしっかりと道につなぐよう、丹精することも教会にとって非常に大切です。

例えば、ご本部主催の「後継者講習会」は教祖年祭の翌年に開催されていますが、この時点で 19 歳だった人は、10 年後にしか受講できません。これまでも、「切れ目のない育成」を目指して、講習会や集いを大教会で開催してきましたが、他の行事や各会の活動とうまく結びついていなかった面もあります。

たとえ時代が進み、育成側の顔ぶれが変わったとしても、体制がしっかりと整っていれば、他の行事・活動との連携も図りやすくなるで

しょう。しっかりと「人を育てる」という意識のもと、場当たりの行事ではなく、定期的な丹精の場を設けることで、教祖年祭から次の年祭までの 10 年間の「育成の流れ」を作りたいと考えます。

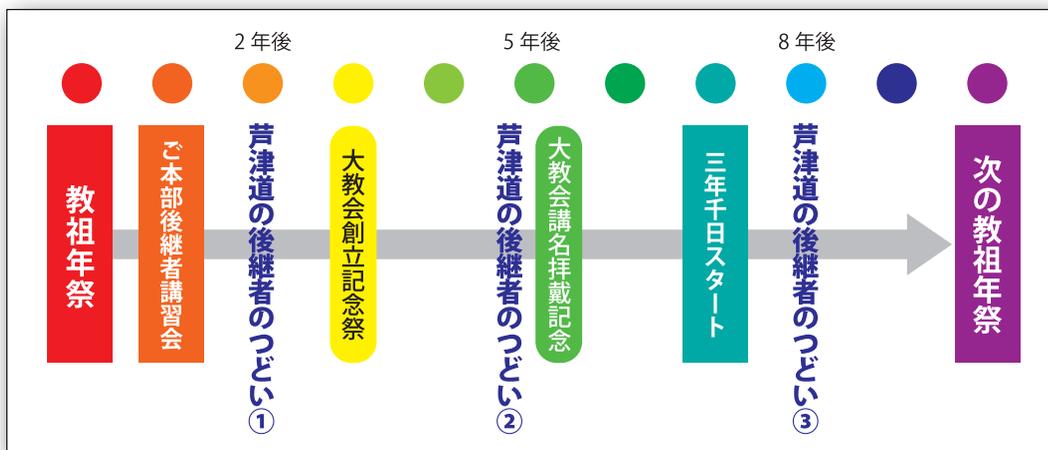
丹精の場の有る無しによって、成人のチャンスは大きく変わってまいります。また、自教会だけではなかなか丹精が行き届かないこともあるでしょう。大教会という大きな器だからこそできることもあり、同じ世代のお道の仲間と絆を深める機会にもなります。

そうした上から、教祖年祭の 2 年後、5 年後 8 年後に、芦津大教会独自の「道の後継者の集い」を開催し、「後継者講習会」の受講者を中心とした年代を丹精する手立てとします。

育成のための 10 年計画

道の後継者の集い

すべての若年層を対象に、教祖年祭の 2 年後、5 年後、8 年後に開催します。



大教会では、教会長子弟に限らず、広く若年層全体を対象とした、独自の育成行事を定期的に行い、次の年祭まで切れ目なく丹精が行き届くようにします。親が子弟に対して、いつ、何の行事があって、どれを勧めればいいのかを常に考え、声をかけること。そうした上から、10 年間の育成プログラムとして「道の後継者の集い」を、教祖年祭の 2 年後、5 年後、8 年後に開催します。

今年の「わかぎの集い」 「学生生徒修養会」参加者に聞いてみました。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、3月のおぢばでの「学生生徒修養会」、「春の学生おぢばがえり」の中止が決定し、それに伴い大教会の「あしつスプリングフェスタ」の各行事、「春の学生おぢばがえり声津直属隊」、「わかぎの集い」、「少年会総会」が中止となりました。

今号では、大教会の重点育成行事である「わかぎの集い」「学生生徒修養会」に、昨年参加した学生にスポットを当て、率直な感想を聞いてみました！

立教 181年 182年
「わかぎの集い」参加

菊池 まい (15歳)
(和鎮分教会)



●誰から声をかけられて参加しましたか？

母や叔父から声をかけてもらい、わかぎの集いがあることを知りました。また、芦津鼓笛バンドに入っていたので、そこでできた同学年の友達と一緒に行こうと声をかけ合って、参加することを決めました！

●参加する前と後で、気持ちは変化しましたか？

参加する前と比べて、初めての人と話すのが苦手ではなくなりました。自分から積極的に話すことができるようになりました。そして、芦津に繋がる友達、知り合いが増えました！

●心に残ったことや言葉は何ですか？

おつとめ練習を通して、できなかった鳴物ができるようになったこと。2日目に外に出て、班内のいろんな学年の子といっぱい話をしたり、ミッションをクリアしていくのが楽しかったのを覚えています。中1の時の参加で友達がたくさんでき、中2の時はさらに距離が縮まり、楽しさが増しました。特に、「たすけあい」という言葉が心に残っています。

●参加して得たものを今後どう活かしていきますか？

高校生活や、行事や活動に参加したときには、積極的にいろんな人に話しかけたりして、繋がりをつくっていくこと、そして、たすけあい、協力することの大切さを忘れないようにしたいです！

立教 180年 181年 182年
「学生生徒修養会・高校の部」参加

奥田 陽人 (18歳)
(周宝分教会)



●誰から声をかけられて参加しましたか？

上級の会長さんに声をかけてもらい、所属の会長さんや親の後押しもありました。初めての参加の時は、1週間の合宿生活が不慣れでしたが、お道を今一度しっかり見つめ直したいという思いもあり、参加を決めました。

●心に残ったことや言葉は何ですか？

3年生の時に、感話大会で大勢の前で話ができただことは、とても印象深いです。その年、班長を務めることになり、お道の教えの中で、悩む人が前に進めるよう手助けできた嬉しさ、喜びを経験

したこと、そして、自分の将来進む夢や目標が見えたことが大きかったです。

心に残った言葉は、「皆丸い心で」。葡萄のように丸く、しかも柔らかい心で繋がり合うことの大切さを教えていただいたことが、とても心に残っています。

●参加して得たものを今後どう活かしていきますか？

天理教がすごく好きになったこと、またかけがえのないお道の友達が全国にできたことは、参加して本当によかったと思いました。そして、多くの人との繋がりを感じました。天理大学に進学後は、勉学に励むとともに、将来の夢であるスクールカウンセラーのこともしっかりと学び、自分にできる人だすけの道を歩みたいです。

部内教会長・直属育成担当者の皆様へ

新型コロナウイルス感染拡大にともない、おぢば・大教会の各行事が中止となりました。また、3月24日に開催予定をしていた「第4回教会長子弟育成者研修会」も延期となりました。本来なら、研修会の詳細や、スプリングフェスタで未来のようぼくが信仰の喜びを生き生きと感じている姿を掲載したかったのですが、今回は内容を大幅に変更してお届けすることになりました。

しかしながら、行事・活動は中止となっても、それぞれができる育成の歩みは止めてはなりません。学校が休校となり、自宅にいる今だからこそ、子弟に伝えることができることもあるのではないのでしょうか。

ある教会では、子供たちとコロナウイルス感染の治まりを願って、毎日お願いづとめを始めたそうです。またある教会長は、子供たちとの団らんの時間を作り、その中でお道の教えを伝えようとしています。

今、できることはとても限られていますが、心を遣い、知恵を絞って、お互い子弟の育成に励ませていただきたいと思います。

今回の『育成だより第14号』は、内容変更により発行が大幅に遅れましたこと、心よりお詫び申し上げます。

芦津大教会育成部『育成だより』編集部

人を育てる「座右の書」

人を導くために参考となる書籍を紹介します



- 人生を創る言葉 古今東西偉人たちが残した94の名言／渡部昇一 著
- 致知出版社 ●1,760円（税込）

人生を有意義に生きるための知恵の宝庫。さまざまな境遇にある現代人に、それぞれの道での志の立て方、その完遂の仕方を教えてくれる。

古今東西の偉人・英傑・大成功者が数多く登場。各々の事跡をたどりながら、残された言葉にスポットライトを当て、「よりよき人間のあり方」「決断の瞬間」「運命を開くもの」「心を練る」「教育の急所」「成功の秘密」「金銭哲学」「人生の心得」のテーマごとに、著者の解説を加えて紹介する。

①育成プロジェクトの現状とこれから ②わかぎの集い、学修で育てられた私

あしっ 育成だより 14

立教183年4月26日発行
編集/天理教芦津大教会育成部